

観峰館

春季企画展

以含生四時無形潛寒暑  
以含生四時無形潛寒暑

うつす。

りんしょ

—中国近代の臨書作品—

展示パンフレット

以含生四時無形潛寒暑  
以含生四時無形潛寒暑

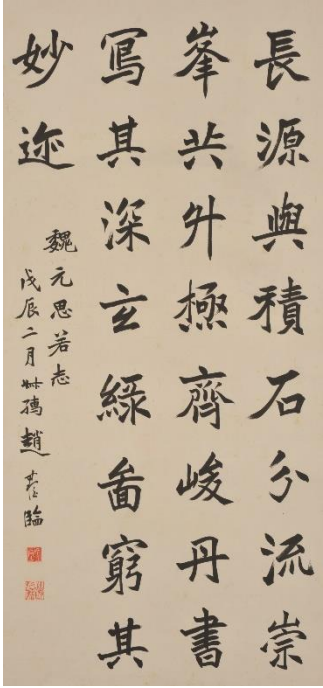


# I. 楷書―石に刻された正式書体―

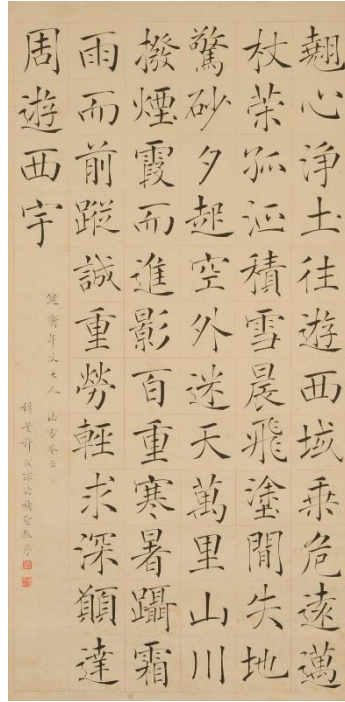
楷書は、一点一画を切り離して正確に書く書体です。その萌芽

は三世紀頃の中国に見ることが出来ませんが、唐時代（六一八〜九〇七）に至って洗練された美しさを作り上げたと言われます。

本章では、まず唐時代の楷書を手本として臨書した作品を展示し、現代にも通じる楷書の典型をご覧いただきます。さらに北魏時代（三八六〜五三四）の墓誌銘などを手本として臨書した作品もあわせて展示します。さまざまな楷書の臨書作品をお楽しみください。



趙時綱 (1874~1945)  
《楷書臨元欽墓誌銘軸》  
中華民國 17 年 (1928)



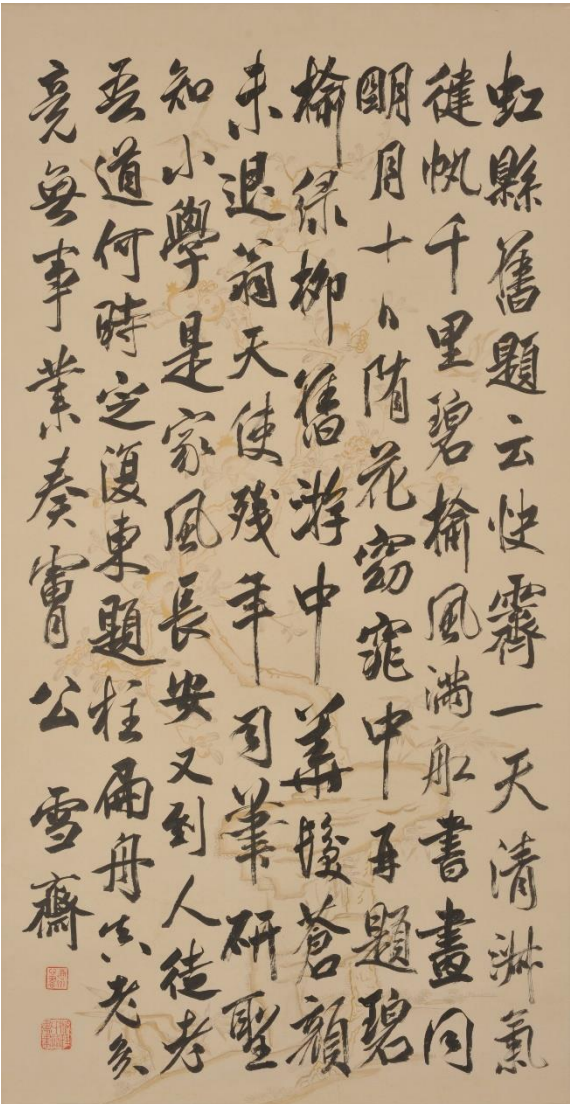
許成宗 (1882~1967)  
《楷書臨雁塔聖教序軸》  
中華民國

# II. 行書と草書

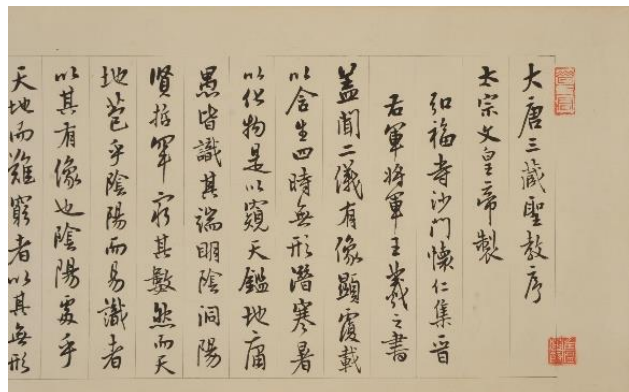
## ―書聖・王羲之とその流れ―

行書と草書は、文字を速く書くために生まれた書体です。行書では点画を連続／省略し、草書では字形を簡略化して書きます。いずれも、漢時代（前二〇六〜二二〇）の隸書を速写するなかで生まれてきたと言われます。

行／草書の手本として用いられる代表的なものは、東晋時代（三一七〜四二〇）の王羲之（三〇三？〜三六一？）によって書かれた作品群です。本章では、王羲之の代表作《蘭亭序》や、唐時代に王羲之の字を集めて作られた石碑《集王聖教序》の臨書作品をはじめ、王羲之の流れを汲む行書と草書を手本とした臨書作品をご紹介します。



愛新覺羅 溥忻 (1893~1966)  
《行書臨米芾虹泉詩卷軸》  
中華民國

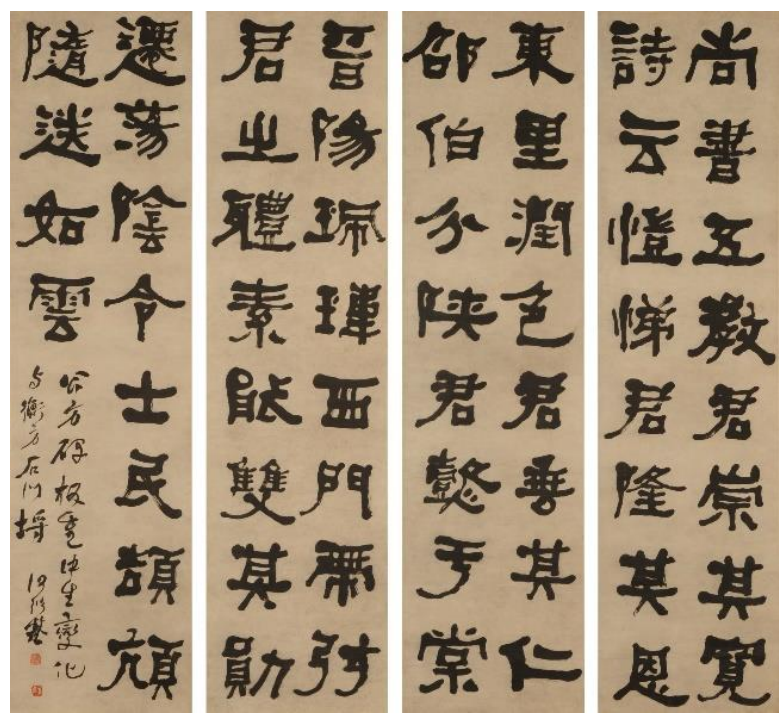


鄧散木 (1898~1963) 《行書臨集王聖教序橫披》部分  
中華民國 29 年 (1940)

### III. 隸書—漢時代の八分隸—

隸書は、漢時代(前二〇六〜二二〇)に正式書体として用いられていた書体です。後漢時代には、扁平な字形と波打つようなライである「波磔」を持つ「八分」と呼ばれる姿になります。現在、隸書が日常の筆記に用いられることはありませんが、紙幣や新聞の題字などには使われることがあります。

本章では、後漢時代に建てられた石碑を手本とした臨書作品を展示します。石に刻された隸書は、書家たちの手によってどのように紙に書き写されるのか、その変容をご覧ください。



かしようき  
何紹基 (1799~1873)  
れいしゅうりんちようせんひしへい  
《隸書臨張遷碑四屏》  
清時代後期

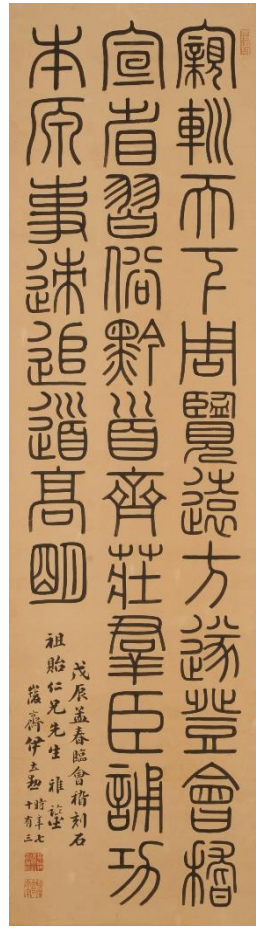
### IV. 篆書—中国古代の金石文—

篆書は、漢字のもっとも古い書体です。象形性が高く、現在では印鑑などに使われています。篆書には様々な種類がありますが、秦時代(前二一〇〜前二二一)が中国全土を統一した時に定めた「小篆」が標準的なものとされます。それ以前は点画の数が多く「大篆」が用いられ、さらに古くは地方ごとに独自の字形を使用していました。

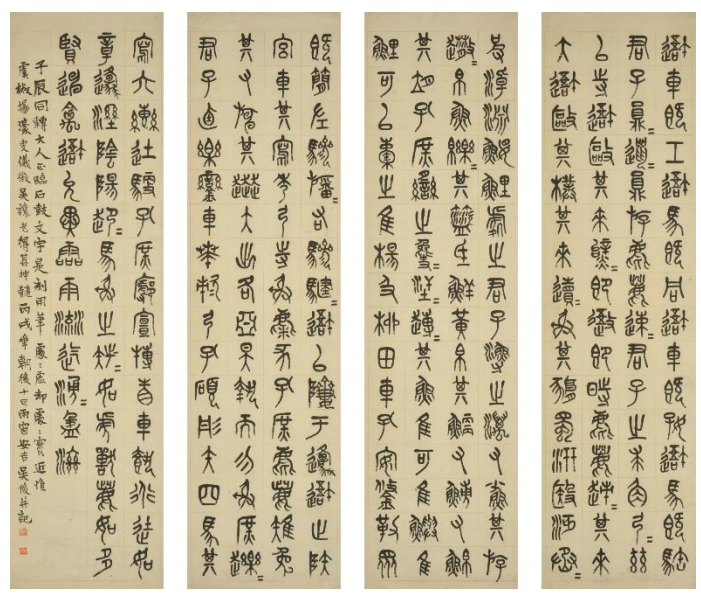
これらの文字は青銅器に鑄込まれ、あるいは石に刻されて、現在に伝わっています。

また、金属や石に残されている文字を「金石文」と呼び、篆書は金石文を代表する書体ともいえます。本章では、これら中国古代の金石文を手本とした臨書作品を展示します。

また、金属や石に残されている文字を「金石文」と呼び、篆書は金石文を代表する書体ともいえます。本章では、これら中国古代の金石文を手本とした臨書作品を展示します。



いりつくだん  
伊立勳 (1856~1942?)  
てんしゅうりんかいけいこくせきじく  
《篆書臨会稽刻石軸》  
中華民国 17 年 (1928)



ごしゅうせき  
吳昌碩 (1844~1927)  
てんしゅうりんせつこぶんしへい  
《篆書臨石鼓文四屏》  
清時代後期 光緒 12 年 (1886)

☆一部、手本となっている作品の拓本を展示しています。ぜひ見比べながらご鑑賞ください。

## イベントのご案内

### アンティークオルゴール鑑賞会

観峰館のアンティークオルゴールを  
実際に演奏します。

日 時：4月29日（土）14時30分～15時30分  
定 員：30名（参加費無料、要予約）



アンティークオルゴールの音色をお楽しみください  
※写真は過去のものです



井上 幸紀氏（二胡奏者）

### ギャラリートーク&ミニコンサート

井上幸紀氏による二胡演奏と、春季企画展の  
ギャラリートーク（展示室での作品解説）を行います。

日 時：5月14日（日）13時30分～15時00分  
演奏者：井上 幸紀氏（二胡奏者）  
定 員：30名（要予約）※参加には入館料が必要です。  
※所要時間はコンサート・ギャラリートークとも40分の予定です。

### 土曜講座

展示担当学芸員が、企画展に関連した  
内容の講座を行います。

※各回、参加には入館料が必要です。

#### 1 「臨書の魅力」

日 時：4月22日（土）13時30分～14時30分  
定 員：20名（要予約）

#### 2 「臨書作品の見方／考え方」

日 時：6月3日（土）13時30分～14時30分  
定 員：20名（要予約）



展示担当学芸員による講座の様子です  
※写真は過去のものです

☆本展の解説を動画でもご覧いただけます。

URL：<https://youtube.com/live/GlwbLSQYZ2k>

※YouTube ライブ配信のアーカイブです

